

## 広帯域化するEMC技術論文特集の発行にあたって



広帯域化するEMC技術論文特集編集委員会

委員長 藤原 修

ユビキタスネットワーク社会の実現に向け、携帯電話端末はいうに及ばず無線LANなど高周波帯域での小電力無線通信システムが急速に普及し始めた。その一方、デジタル技術を利用した回路あるいは電気・電子機器と上記通信システム間の電磁干渉がGHz帯といった従来以上の高周波かつ広帯域で発生し、EMCの新たな課題となっている。この種の電磁的相互干渉を抑制し、共存するシステムを実現していくためには、それに対応するEMC技術が必要にして不可欠であり、現在、多くの機関で研究開発が進められている。

このような状況のもとで、広帯域化するEMCに関する設計技術、対策技術、計測技術、試験技術、評価技術、シミュレーション技術を中心に、幅広い分野での最新のEMC技術に関する論文を募集したところ、29編にも及ぶ多数の論文を御投稿頂いた。本特集では最終的に、論文13編、レター3編の合計16編を収録することとなったが、そのほかに上芳夫先生（電気通信大学）から「EMCにおける伝送回路理論とその展開」、古賀隆治先生（岡山大学）からは「日本におけるEMC技術の進歩発展と将来展望」をそれぞれ招待論文として御寄稿頂いた。上先生の論文は、これまでの

御研究の集大成にも相当する労作であるのに対して、古賀先生の論文は、折しも環境電磁工学研究専門委員会（EMCJ）発足30周年を飾る、まさにタイムリーなレビューである。

本特集がEMC研究者・技術者のみならず関連分野の研究・技術者各位にも興味をかき立て、EMC技術のいっそうの発展につながることを期待するところである。

最後に本特集の発行にあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力下さった査読者各位、企画並びに編集に御尽力頂いた編集委員各位並びに学会事務局の方に厚くお礼申し上げる次第である。

ふじわら おさむ  
藤原 修（正員） 昭46名工大・工・電子卒。昭48名大大学院修士課程了。同年（株）日立製作所中央研究所入所。昭51同所退職。昭55名大大学院・博士後期課程了。名大・工・助手、同講師を経て、昭60名工大・工・助教授。現在、同大学院情報工学専攻・教授。平3～4スイス連邦工科大学客員教授。放電雑音、生体電磁環境、環境電磁工学に関する研究に従事。工博。電気学会、IEEE、静電気学会等各会員。昭55電気学会論文賞受賞。平12本会論文賞受賞。

### 広帯域化するEMC技術論文特集編集委員会

委員長	藤原 修
幹事	岡 尚人・川 又 憲
委員	王 建青・上 芳夫・桑原伸夫・畠山賢一 嶺 岸 茂樹・和田 修己・松本 泰